



釧路大だより

AあうろーらA



平成23年度 学位記授与式 (平成24年3月23日)

東日本大震災により被災された学生に対し、引き続き経済的支援を行っています。

この震災により授業料の納付が困難となった学生に対して、入学金の免除や前期授業料の減免を行っています。

ご相談については、事務局学生課までお問い合わせください。

CONTENTS

- 学長メッセージ…………… 2
- 学部長・附属図書館長メッセージ…………… 3
- 退職者あいさつ…………… 4～5
- 留学を終えて…………… 6～7
- 学生のページ・就職戦線最新情報… 8～9
- 大学ニュース…………… 10



印象というよりは震動をくれた若者

釧路公立大学学長 高野 敏行

この度、小磯修二前学長の後をうけ、学長に就任しました。開学以来24年間この大学に籍を置いてきた身ではありますが、いざ学長という職責を担って大学の歩みの先頭に立つことになると、学内を歩いていても何やら別の気配がただよっているかのように感じられます。未熟ですね。まことに身の引き締まる思いです。厳しいご批判と暖かいご協力を、切に期待申し上げます。

さて、今日は思い出話をさせていただきます。その中に、「大学」や「若者」についての思いが表われてほしいと思っています。おつきあいください。

数年前の夏にドイツのドレスデンにある大学での語学研修に参加しました。ドレスデンは旧東ドイツ、ザクセン州の首都で人口50万人ほどの歴史ある都市です。研修の手続きのために大学を訪れたとき、あちこちに掲げられている標語が目につきました。「学問・科学」を意味するWissenschaftという単語をもじった、「Wissenschaft Brücke (知は橋をかける)」という標語です。旧東ドイツ地区の経済状況が思わしくないため、東西ドイツの再統一の意義が改めて問われていたこと、ポーランド、チェコなどの近隣諸国との新たな関係が模索されていたことは、数日前に到着して、街を歩いていた私にも感じられていたので、大学が社会に向き合おうとする姿勢を感じました。同時にこの標語が、「地域に結びつき開かれた」、「理論と実践の相まった」、「国際性を重視する」、という本学の理念と響き合うものであることに気づき、ある種の感慨を覚えたものです。

その夏の語学研修の参加者は100名ほどで、そのうち15、6名ほどがクラスメートでした。毎年ドイツ各地の語学研修に参加して、祖父の故国ドイツを味わっているイギリス人老婦人。ドイツ文学専攻のイタリア人大学院生、独仏の外交関係を研究しているフランス人大学院生が年長者で、これ以外のメンバーはポーランド、チェコ、ロシアの大学生でした。彼らは先々ドイツで働く、あるいはドイツとかかわる仕事に就くために、ドイツ語学習の単位を取得しに来ていたようです。

その一人、ポーランドの学生マルティンとは妙に気が合い、教室ではいつも隣席に座っていました。「日本は、ホッカイドー、ホンシュウ、キューシュウ、シコクの四つの島でできている」等々、日本についての予想外の知識を披露しては、にやっと笑う若者でした。

ある週末の午後、宿舎からポプラ並木の坂道を下って、スーパーへ向っていると、ポーランド人グループと出会いました。なかからマルティンがこちらへ寄ってきて、「高野、石鹸を買ってくるのを忘れてしまった。買ってきてくれないか?」と頼まれました。もちろん引き受けて、翌日教室で清算しました。

その数日後、磁器生産で有名な近隣の町マイセンの見学に出かけるプログラムがありました。出発・帰りの集合場所と集合時間だけを決め、自然に出来るグループごとにまとまって磁器工場見学、博物館見学、市内見物をするという、ゆるやかな団体行動です。私はマルティンを含むポーランド人グループとともに行動していました。市内見物をしているうちにカフェで昼食をとることになりました。テーブルについて各自が注文し、飲み食いし始めましたが、明らかに空腹のはずのマルティンは水を飲むばかりです。つい、「マルティン、これいっしょに食べてくれ」と、自分が注文したサンドイッチのようなものを差し出すと、「いらない」という返事がかえってくるばかりでした。何やら気まずいムードで昼食は終わり、歩き始めると、マルティンが寄ってきて、「高野、俺はお前のことを友達だと思っている。この前、買い物頼んだら。あんなことは友達にしか頼まないよ。でもポーランドでは、食べ物を分けてやるとかおごってやるというのは、友人ではなく主人と召使の関係でのことがらだ。だから断ったんだ。悪く思うな」と言ってくれたのです。

このポーランドの若者の言動に私の心は強く揺すぶられました。日本で、釧路で出会う若者たちにも、あんな振る舞い方ができる、あんな言葉を口にする生き方をしてほしいと、今も思っています。

学部長メッセージ



学部長に就任して

小路 行彦

4年前に図書館長を退任して、あとは定年まで自分の研究をまとめて引退と思い描いていましたが、このたび、ちょっとした偶然で、学部長を拝命することになりました。普段の行いが悪かったのか、と反省してももう始まりませんので、微力ながら務めさせて戴くことにしました。どうぞ宜しくお願いします。

昭和63年に創設された本学は、平成に入ってから設立された公立大学の草分け的存在でしたが、その後の設立ラッシュの中に、埋もれてしまった感があるの否めません。ちょっと前までは、中国地方からも結構な受験生と入学者がいましたが、近年はめっきり入学者が減ってしまったようです。各県毎に公設の大学が設立された影響でしょうか。

本学ももうすぐ開学25年、四半世紀を迎える大学に成長してきました。地域に開かれ、国際性に富んだ大学というのが、開学の理念の1つでした。カナダへの語学研修派遣に加えて、台湾、韓国、ロシアとは交換学生協定が結ばれ、これらの国に留学でき

ることが学生にとって大きな励みになっています。3カ国からも本学に留学生が訪れ、学生との交流を深めています。この度退職されました小磯前学長が築き上げた地域経済研究センターは、地域に多くの提言を行い、地域に貢献する大学の役割を一手に引き受けてきた感があります。小磯先生ご苦労様でした。

センターは別にして、大学の地域への貢献はどうでしょうか。何と云っても優秀な卒業生を送り出すことですが、1期生が卒業して20年、活躍されているOBの名前も聞こえてきますし、地域の希望は「公立大の卒業生」という声も聞こえてきます。こうした評価がどんどん高まり、全国から有為な人材が集まるように、努力していくことが重要です。学生の地域への関心も高いものがあります。自分の生まれ育ったところを何とか活性化したいというアクチュアルな問題関心です。開学の理念をさらに具体化することで、これに答えていくことができればと思います。

附属図書館長メッセージ



図書館長に就任して

高嶋 弘志

はからずも二度目の館長を拝命しました。前回の1年目は図書館の増築中で長い休館を余儀なくされました。2年目になって新しい図書館を満喫することができました。それから6年経ち、土曜開館、市民開放も定着しました。床面積で3倍以上に広がった館内の書架スペースにはまだ余裕はありますが、いずれは毎年1万冊以上増える図書に抗し切れず対策を講じる必要があるでしょう。電子書籍の導入も課題となりそうです。

先日、釧路市内の古文書研究グループから『永久保秀二郎日記』の寄贈を受けました。永久保は「春採土人学校」の教師として永年アイヌ教育に尽力した人物で、その日記は釧路市の文化財に指定されています。これを10年かけて解読し、このたびアイヌ文化振興・研究推進機構の助成金を受けたことから、市内の出版社が協力して出版したものです。33

年間におよぶ日記はとても立派な2冊の本になりました。グループや関係者のたゆまぬ努力には頭が下がります。このような地域の出版物は大量に売れるものではないので、なかなか大手の出版社は引き受けません。自費出版でしか刊行できないものも多いようです。このような郷土の出版物を大切にしたいと思います。

これまでも北海道や釧路地域の出版物はできるだけ集めてきましたが、これには出版の情報が不可欠です。様々な手段で情報を入手して寄贈をお願いし、それが叶わないときは購入することが肝要です。市民の方々からも、公立大の図書館に行けばほとんどの郷土資料が閲覧できると言われるようにしたいものです。個人的な希望でもありますが、そんな夢をもっています。



創造と革新は地方から

小 磯 修 二

私は1999年6月に、新しく地域のシンクタンクとして本学に創設された地域経済研究センターに赴任しました。期待された活動は、幅広い地域課題の解決に向けて実践的な研究プロジェクトを組織し、推進していくというものでした。専任の研究スタッフは私一人で、外部から研究資金を調達しなければならぬなど、正直なところ大変難しい命題でしたが、内外の研究者や地元の人々と一緒に、一歩ずつですが活動を積み上げていきました。そこで感じたのは地方の可能性の大きさでした。ただ、一方でその可能性を実践的な力として引き出していくためには創造的な知恵と、既存の秩序、常識を打ち破る革新の精神が必要だということも痛感しました。中央ですべてが決まる現状への不満やあきらめから消極的になりがちな意識から、創造と革新のエネルギーを顕在化していくためには、科学的な分析力により説得力のある意

識醸成と共有が不可欠であり、そこに地方の大学の知的拠点としての役割があります。

私は2008年から学長に就任し、学生に向き合う機会が多くなりましたが、学生にはいつも地方で学ぶことの魅力と醍醐味を感じてほしいと語ってきました。日本では多くの大学生が大都市で過ごしています。地方のゆとりのある空間と美しい自然環境に囲まれて学ぶことの素晴らしさ、また国や社会のシステムを変革していくのは地方（フロンティア）からであること、さらに自からの気概と力で創設した建学の精神を語り、釧路公立大学で青春を過ごしたことを誇りにしてほしいというメッセージです。

これからも釧路の地で創造と革新に向けての学びと活動が一層躍動することを心より願っています。



釧路の17年——花や鳥などの思い出

松 井 憲 明

17年もたつと、多少は町とともに自然も変わる。大学内に植樹されたアカエゾマツやブンゲンストウヒは立派に育ち、今では構内から阿寒の山並みを望むことが難しい。美原地区との境目にある空き地も、昔は阿寒富士がよく見えると言って鷹田先生が好んで歩いておられたが、最近では夏になると背丈の高い草に覆われ、人を寄せ付けない。というより、散歩する人間が減っている。地域の人口の高齢化と減少のせいだろう。空では盛んに停空飛翔をやっていたヒバリが姿を消し、豪快なカミナリシギの急降下も見られなくなった。おそらく湿原道路や新道や病院などの建設により巣が破壊されたのだろう。しかし、変わらないものもある。毎年6月初めには必ずカッコウの初鳴きの声が研究室に聞こえてくる。花の中で最もよく繁

茂するのはルピナス（ノボリフジ）で、放っておくとも庭中を占領される。干上がった湿原に自生する可憐なムシトリナデシコも家の庭に移植するとかなり大きくなる。道端の月見草やコウリンタンポポ（ロシアタンポポ）も同じだ。湿原の名残はコタヌキモだろう。毎年あちこちに黄色の小さな花を咲かせる。反対に、サクラノボの木は17年間で3回しか実をつけなかった。花は咲いても、初夏の冷温と雨がそれ以上の生長をなかなか許さない。また、アサガオは急がずに7月末に種をまくと、8月には伸びて9月に開花する（このことが分かるのに3～4年かかった）。だから、遅すぎて種は採れない。という具合で、どれも私にとっては思い出深い生き物ばかりである。



これからもよろしくお願いします!

中 園 桐 代

17年間勤めた釧路公立大学をこの3月に「卒業」することになりました。公立大学で初めて女性の専任教員（しかも0歳の子連れ）として赴任してから今日まで研究、教育を続けてこられたのはひとえに公立大学の皆さんと地域の皆さんの支えがあったからだと感謝しております。

0歳で連れて来た長女は今高校2年に、赴任して3年目に生まれた次女も中学3年になりました。この間、無認可保育園の運営と認可園への「昇格」運動、児童館での学童保育の運営、小・中学校のPTA活動といった地域の子育てに参加し、あまり男性の先生たちが関わらない活動に時間が取られて正直つらいと思ったこともあります。しかし、その中で地域の親たちの働き方、子どもの育ちを自分の目で見て感じられたことは私にとっ

ては貴重な財産です。それがなかったら2005年から関わった母子世帯の母の就労支援に関する調査も上手くいかなかったと思います。

子どもを支えてくれた施設の「先生」たちの多くは女性で、また非正規雇用で働いています。仕事は大変なのに賃金は決して高くはありません。彼女たちの「労働」があってこそ、子どもたちもまっすぐ育ってくれたと思っています。

4月からは札幌の北海学園大学で教鞭をとりますが、場所は異なっても北海道の働く人たちのために少しでも役立つ研究、教育を続けて行くつもりでおります。また、2012年度は1年間札幌から非常勤で通いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



退職の挨拶——感謝をこめて

市 川 千 恵 子

3月末日をもちまして釧路公立大学を退職することになりました。2003年9月に着任してから8年半もの長い間、お世話になりましたことに対し、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。東京で生まれ育った者にとり、釧路の気候、特に冬の生活は厳しいものではありませんでしたが、良き同僚と仕事環境に恵まれ、どうにか無事に過ごすことができました。北国に暮らす人々の心の強さ、おおらかさ、そしてしなやかさには、学ぶべきことが多くございました。

本学で教え始めた当初、学生の素直さ、勤勉さには驚きと感動を覚えました。というのも、東京での非常勤講師時代には、授業中に何度も「静かにしなさい!」と叫ばなければならない経験があったからです。また、課題を出せば、大半の学生は真摯な態度で取り組もうとしてくれました。こ

うした良き伝統がこれからも続くことを祈念しております。さらに、研究環境の面においても、他の大学に比べ、恵まれていたように思います。おかげで、国内外の学会や学術雑誌に研究成果を発表することができ、研究者としても成長を遂げることができました。

4月からの転任先では、学部と大学院の専門教育（イギリス文学・文化）に携わることになります。本学での英語教育の経験を活かしながら、教育者、そして研究者として、さらに研鑽を積んでまいりたいと存じます。

最後になりましたが、釧路公立大学の今後のご発展と、諸先生方、事務局・図書館の皆様、そして学生の皆様のご多幸を祈り、挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

留学を終えて



カナダ・キャピラノ大学派遣

経済学科3年 伊原 貴哉

私は今回、カナダへ留学が出来て本当に良かったと感じています。カナダでは、日本と全く違う生活が営まれており、一瞬一瞬が自分にとって驚きであり発見でした。向こうで出来たイラン人の友達とイ

ラン料理を食べに行ったり、中国人の友達の家で餃子をつくってもらったりと、こちらではなかなか経験出来ないことが多くありました。

自分の英語やコミュニケーション能力に自信があったわけではありませんが、終わってみれば、たくさんのいい友達やホストファミリーと大いに話したり、どこかへ遊びに行ったりと、とても充実した海外生活だったと心から思います。



カナダ・キャピラノ大学派遣

経済学科3年 小田嶋 純平

海外に留学することで学べることは本当に多くあるかと思います。私もカナダに留学することで様々な経験を得ることができました。その中でも多種多

様な国々の人との交流ができたことは、大変勉強になりました。カナダでは色々な人種の人々が住んでいるため、カナダの人々だけでなく、一緒に英語を勉強しているクラスメイトのアジアの人々、ヨーロッパの人々からも今まで知らなかった文化や世界を知ることができました。それは日本では経験のすることができない、貴重な経験となりました。



カナダ・キャピラノ大学派遣

経済学科3年 本間 夏菜

カナダに旅立つ前、私は言葉が通じるか、無事に留學生活をおくれるかと不安でいっぱいでした。しかし、いざ現地に着いてみると不安よりも新しい生活に対する期待に胸が高まりました。もちろん、最初の頃はとにかく授業についていくことや相手の話の理解に精一杯でした。

3カ月を過ぎた頃には、ステイ先の方からも会話力が上がったと褒められるほどになり、また、学校でひとつ上の語学のクラスに行けることが分かったときは嬉しさとともに自信にもなりました。留學中は英語の勉強だけではなく、興味のある授業の聴講や地域のスポーツクラブへの参加、旅行、観劇など様々なことに挑戦しました。

留學では楽しいことだけではなく辛いこともありましたが、そのすべての経験が私を強くし、自信となりました。語学とともに私自身も成長できた4カ月だったと思います。



韓国・牧園大学派遣

経済学科4年 澤 芽衣

韓国での1年間は、本当に充実したものでした。最初はなかなか言葉が通じず悔しい思いもしましたが、いつの間にか自然に会話をしている私がいきました。留學生活を通して、韓国人だけではなく色々な国の人も知り合いました。それぞれの国のイメー

ジや偏見も実際に見たり話してみることで大きく考え方が変わり、外国からみた日本を知ることで日本について考える機会も増えました。寮で韓国の学生達と生活を共にしたり、ホームステイで韓国の家庭の温かさを身をもって知ったりと、旅行では得られない貴重な経験をすることが出来ました。家族や友人、先生など多くの方々を支えられながら得た多くの経験と出会いは、私にとって大きな財産になり、本当に感謝の1年でした。今後はこの経験を活かしてもっとたくさんの方のことを学んでいきたいです。



韓国・牧園大学派遣

経済学科3年 森島 郁

안녕하세요 (こんにちは) から始まり 감사합니다 (ありがとうございます) で終わるそんな1年でした。初めは会話がほとんど分らず、韓国語についていけるか不安で

した。このままではいけないと思い、韓国料理を習いに行ったり、ヨガ教室、陶磁器教室、と無我夢中でトライしたので、自然に友達の輪が広がり時間が過ぎるのが早く感じていきました。そんな毎日の中で韓国の人に限らず様々な国の人を通して、多くの考えを学ぶことができました。去年の震災は遠くから見るしか出来なかった私でしたが、韓国で学んだ経験踏まえて社会貢献できたらと思います。



台湾・明道大学派遣

経済学科4年 菅野 みつは

外国で生活することは、私の子供の頃からの夢でした。実際に台湾で生活してみると自分では気づかなかった日本との面白い違いを発見できました。そ

のの違いに戸惑うこともありましたが、旅行だけでは見ることのできない国の文化や歴史などを時間をかけて見る事ができました。また、留学を通して良い事も良くない事も本当に貴重な体験をすることができました。そのどれもが印象深いものです。留学を終えて就職活動等次へと進むべく、日々成長していけるように努力したいと思います。このような体験をさせていただいて大変感謝しています。



台湾・明道大学派遣

経済学科3年 翠 優里恵

台湾で過ごした1年間はとても充実したものでした。初めは全然聞きとれなかった中国語も毎日、クラスメイトに教えてもらったおかげで、半年も過ぎ

ると概ね聞きとれるようになり、少しずつ上達しているのを実感することができました。帰国するまでの4か月間は、ホームステイする機会をいただき、バスで1時間かけて学校に通いました。朝8時の授業に間に合うように起きるのは大変でしたが、学校以外の人も知り合うことができ、学ぶことも多かったです。この留学で得たものを今後の活動に生かしていきたいと思います。



ロシア・ユジノサハリンスク 経済法律情報大学派遣

経済学科3年 吉田 澪

ロシアのサハリン州は、今まさに先進国への成長を遂げています。自分と同年の20歳のロシアは停電や断水が起きることもしばしばあり、スーパーマーケットが次々と建てられ日々変わりゆく町を感

じ、驚きと発見、そして日本では味わうことの出来ない苦勞が留学生生活を占めていました。ただ困ったら助けてくれる、困っていたら助けてあげるロシア人の優しさに支えられ、つたないロシア語でも助けてあげられたときの喜びは忘れないと思います。日本しか知らなかった私にとってこの貴重な経験は、私を強くしてくれたと思うし、いつか必ず役立つ時がくると思います。



ロシア・ユジノサハリンスク 経済法律情報大学派遣

経営学科3年 大石 祐希

ロシアに留学する前は、文化や言語の違いなどに不安を抱いていましたが、ルームメートのジェーニャとの出会いですぐにその不安は消えました。最初の出会いはロシアに住み始めて二日目、突然2人部屋を1人で使う予定だった自分の部屋に、彼が隣

の部屋から了解なく荷物を持ち込んできたことでした。戸惑っている間もなく色々な所へ案内してくれロシアの事を色々と親切に教えてくれました。

その後もすぐに同じ寮、他校、社会人の人と多くの友達ができ、地元の祭りへの参加やスポーツ等を通して本当に多くの貴重な経験をしました。

語学力が足りないばかりに伝えたいことが伝わらず悔しい思いもしたので、今度はもっと力を付けて仲間と会いに行きたいと思っています。Спасибо, друзья! (皆さん、ありがとう。)

新 任 教 員 紹 介

● しら川 かわ きん欽 や哉 (教授) 「西洋経済史」「経済史入門」担当

● さ野 のぶ ひさ修久 (教授) 地域経済研究センター長

入学おめでとう

体育会

体育会会長

田中 悠太



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。釧路公立大学へようこそ！

これから始まる新しい生活に期待や不安、様々な思いを抱えていることでしょう。釧路公立大学には、北海道内だけでなく全国からたくさんの学生が集っており、文化やそれぞれの個性が交わる場所です。仲間との触れ合いを通じて、多くの経験をする中で自分自身の価値観を形成し、新たな可能性の発見にもつながると思います。

そこで、人と人との出会いの場として部活やサークルがあります。釧路公立大学には、野球やサッカーなどの球技はもちろん、高校まではなかった新しい競技やカーリングといった北海道ならではの部活もあります。今までやってきた競技を続けて更なるレベルアップを図るのも良いし、新しい競技に挑戦してみるというのも貴重な経験になると思います。大学の部活は学生が中心となって活動しなくてはなりません。そこでの学びは決して机に向っていても学ぶことはできないものであり、これから社会に出たときにきっと役に立つことだと思います。そのためにも是非、部活やサークルに参加してみたいかがでしょうか。

大学生活を通じて勉強を含め、皆さんが自身にとっての大事な「何か」を得ることができたらそれだけでも大学に通う意味があると思います。これから始まる皆さんの大学生活の時間が、多くの人との出会いが、今後の人生のかけがえのない宝物になることを心から祈っています。一緒に最高のキャンパスライフを送りましょう！

文化部会

文化部会会長

小関 暢亮



新入生の皆様ご入学おめでとうございます。そして釧路公立大学ようこそ！

この大学には、皆さんが多くの人達と関わり合い、より充実した大学生活を送ることが出来るように多くのサークルや部活動、同好会等の学生団体があります。

趣味を仲間と共に楽しむために結成されたサークルや、夢の実現を目指し発足した部活動、難関資格に挑戦するために作られた同好会、そして皆さんの大学生活をより良いものにするための生協学生委員会という組織もあります。その活動範囲は釧路だけではなく周辺地域にまで拡大しています。

釧路公立大学では、ほとんどの学生が何らかの学生団体に所属しています。学年や性別、出身地、国籍の違うたくさんの仲間と時間や悩みを共有する事で新たな絆が生まれるでしょう。

人によってはサークル等に興味が無い方もいると思います。授業やアルバイトだけでも楽しい学生生活を過ごせるでしょう。しかし、サークルに入る事でまた違った楽しみや、より多くの仲間を作る事が出来るでしょう。

また、サークル活動で得られる経験、思い出はとても貴重で大切な物です。私自身多くの事をサークルを通して学び、たくさんの思い出や仲間が出来ました。

これから皆さんがスタートを切る大学生活は4年間という長いようでとても短いものです。その4年間の中で自分を見つめなおし、社会に出るための準備をしなければなりません。その4年間を仲間と一緒に過ごし、楽しい事も辛い事も分かち合い、素敵な思い出を作ってください。そのためにも何かサークルに参加する事をお勧めします。

〈体育会〉

男子アイスホッケー部
硬式テニス部
硬式野球部
サッカー部
準硬式野球部
卓球部
男子バスケットボール部
男子バドミントン部
女子アイスホッケー部
男子バレーボール部
ハンドボール部
アメリカンフットボール部
弓道部

剣道部

女子バレーボール部
男子ソフトボール部
女子バスケットボール部
柔道部
ラクビー部
陸上競技部
ソフトテニス部
女子ソフトボール部
女子バドミントン部
合気道部
フットサル部
カーリング部(StoNeカーレース)
女子ハンドボール部

〈文化部会〉

軽音楽部
放送研究部Visions
美術部やちぼうず会
カヌー部BOW
茶道部
吹奏楽部
TRPG研究会
ボランティアサークル
写真部
スノーボード部
囲碁部
書道部
演劇部

ストリートダンスサークルOZ

軟式野球部
二輪会
キャンピーイング部
天体観測部@ハウス
国際交流部
旅行部
ユニホックサークル
NBA同好会
釧路学生新聞局ぽーと
弦楽アンサンブル
F☆S☆A
Study Production J
ビリヤード部

女子フットサル☆CBS

釧路公立大学YOSAKOIソーラサークル
K.F.C部(釧路フィッシングクラブ)
K-SCAN
みんなの落語会
ソフトラクロスサークル
ミニバレーサークル
ソフトラクロスサークル
釧路観光隊
KTC(Kushiro Training Club)
釧路公立大学ソフトダーツ部
釧路公立大学シクロ・サークル

卒業生からのメッセージ



大学生活を振り返って

経済学科 中本 武志

在学中は様々なことに取り組み充実した日々を過ごすことが出来ました。そのなかで私が力を入れ取り組んだゼミの研究、教職課程の履修、就職活動の3点を振り返りたいと思います。

私はゼミにおいて労働経済論を専攻しました。高卒者の就職問題を研究テーマとし、他大学との合同研究発表会や高卒就職者に対してキャリア支援講座を行うなど様々なことに取り組んできました。

このゼミの研究を通じて学ぶことのできたのは、物事に対する見方や考え方です。今日の社会には多くの問題があります。この問題にはそれぞれ内在的要因や外在的要因など様々な要因が社会問題となっています。これに対してどのような視点からとらえ、自分なりの考えを出していく手法をゼミの研究を通じて学ぶことが出来たと思います。

また、教員免許取得に向け、教職課程を履修したことも力を入れて取り組んだことのひとつです。教員免許を取得するにあたっては、履修する授業数も多く、また3週間にわたる教育実習など大変なことも多々ありました。しかし、この教職課程を履修したことで経済学だけではなく教育学も勉強することができ、また教育実習など様々な経験は自分自身を成長させることにつながりました。

そして就職活動についてです。就職活動ではなかなか内定をもらうことが出来ずに悩む時期もありましたが、自信を持って大学生活の中で取り組んだことをアピールすることが出来たこともあり、希望していた企業から内定を頂くことが出来ました。

この4年間を振り返り感じることは「大学生活は自分と向き合うことのできる貴重な時間である」ということです。自分は何をやりたいのか、どのような道を切り開いていきたいのかを考え、様々なことに打ち込めるのが大学生活であると思います。

最後になりますが、後輩の皆さん方のご活躍、そして釧路公立大学のますますの発展を心より祈念しております。4年間本当にありがとうございました。

就職戦線最新情報

リーマンショックや東日本大震災の影響のもと、大学生の就職状況は大変きびしいものになっています。しかしながら、企業側も採用意欲がないわけではなく、特に中小企業においては、優秀な人材を強く求めており、業界によっては多くの若い力が必要としています。

そんな中、今年も多く4年生から内定の報告があがってきました。前年同期に比べると内定率は若干上がっており、学生が企業研究をし、自力で企業開拓をした結果が見てとれます。また、公務員試験も厳しい採用状況の中ではありますが、各都道府県の警察、自衛隊、国税専門官、地方上級・地方自治体など多くの合格報告がされています。低学年時から公務員志望で地道に努力を重ねてきた学生の成果は、確実に結果として現れており、学内で開催する「公務員試験対策講座」も有効に活用されています。

現在、新4年生の就職活動が本格化し、全国で就職活動をする学生から、各種相談の電話や、メールが届いています。また、今年2月から札幌に「釧路公立大学サテライトスペース」を新設し、就職活動をする学生の支援に取り組んでいます。大学を離れ就職活動をする皆さんには、大いに活用してほしいと思っています。

新4年生については、就職活動が例年より2カ月遅れで始まった影響がどのような形で表れるか、心配されるころではありますが、大学生活4年間で培った多くの経験を生かし、充実した就職活動を展開してほしいと思っています。4月からは、新3年生対象の就職対策の講座が週1回のペースで開催されます。また、1・2年生対象にキャリアガイダンスを開催し、有意義な学生生活を送ることが将来的には大きな自分のスキルにつながることを伝えていきます。いざ就職活動本番の時に、皆さんが自信を持って臨めるよう、大学の教職員が一丸となって応援していきます。

卒業予定者の内定先リスト (現在の内定状況) 2012/03/23

- 農林漁業** 宇佐美農場、小川農場
- 建設業** 一条工務店、土屋ホールディングス、北海電気工事、PGSホーム、シリウス、ボラス
- 製造業** デル、フクビ化学工業、王子チヨダコンテナ、協和メディックス、宏和工業、十勝山山電器、日本臓器製薬、北海道糖業、ケイシイシイ、八重樫製菓店
- 卸売・小売業** 富士ゼロックス北海道、北海道エネルギー、三ツ輪商会、大嘉産業、丹波屋、長谷川産業、パロー、ムトウ、モロオ、川徳、福原、エーコープ庄内、コープさくお、コープさっぽろ、デンコードー、エンチャー、ガリバーインターナショナル、アイケイコーポレーション、ホームマック、コメリ、サッポロドラッグストアー、コスモス薬品、ススキ自販北海道、ダイハツ北海道販売、釧路トヨタ自動車、釧路三菱自動車販売、北海道スバル、北海道マツダ販売、ホンダカーズ札幌中央、旭川トヨタ自動車、タカヤナギ、ディンブルックス・ジャパン、トップ、ナイス、ヤマシ、ライフコーポレーション、リアリアル、宮本機械、轟産業、東和電材、野川商事、クワザウ、ココロカ、ジーフット
- 金融・保険業** 静岡銀行、東北銀行、北洋銀行、北陸銀行、ゆうちょ銀行、大阪商工信用金庫、岡崎信用金庫、旭川信用金庫、遠軽信用金庫、釧路信用金庫、室蘭信用金庫、帯広信用金庫、苫小牧信用金庫、大地みらい信用金庫、渡島信用金庫、北見信用金庫、網走信用金庫、日本生命保険、明治安田生命保険、第一生命保険、東京海上日動火災保険、中央労働金庫、東北労働金庫、北海道労働金庫、野村證券、栃木県信用保証協会、北海道信用漁業協同組合連合会、日専連ジェミス、豊商事
- 運輸・情報通信** 東日本旅客鉄道、北海道旅客鉄道、ソラノ北海道、三ツ輪運輸、栗林商船、地域新聞社、HBA、NECソフトウェア北海道、富士通システムソリューションズ、アイティ・コミュニケーションズ、アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング、インターネットイニシアティブ、ウィクサス、コーユービジネスインフォメーションテクノロジクス、三菱総研DCS、鳳情報通信ネットワーク、北陸コンピュータグラフィックス

- 不動産業** 常口アトム、苫小牧港開発、北海道空港
- サービス** 北海道中小企業家同友会、北海道中小企業団体中央会、郵便局、新若手農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会 若手県本部、北海道厚生農業協同組合連合会、あさひかわ農業協同組合、えちご上越農業協同組合、首更町農業協同組合、芽室町農業協同組合、勝英農業協同組合、中春別農業協同組合、東神楽農業協同組合、美瑛町農業協同組合、あすなろ会、練成会グループ、ファミリー、日本赤十字社、王子総合病院、オホーツク勤労者医療協会、十勝勤労者医療協会、パワースタッフ、みつみ福祉会、ジェイティービー北海道、エイチ・アイ・エス、星野リゾート トマト、野口観光、ニスコ、モンテローザ、日本ケンタッキー・フライドチキン、ユーコー、リープラス、合田観光商事、正栄プロジェクト、東京海上日動キャリアサービス、イマダヤ、インテリジェンス、オズビジョン
- 国家公務** 国税専門官(名古屋国税局)、刑務官(網走少年鑑別所)、自衛隊(一般曹候補生)、陸上自衛隊(一般曹候補生)、海上自衛隊(一般曹候補生)、航空自衛隊(一般曹候補生)
- 地方公務** 北海道庁(上級職)、北海道警察、岩手県警察、釜石市消防、岐阜市消防本部、釧路市消防、北見市消防、苫小牧消防、陸前高田市役所、瑞浪市役所、滝川市役所、釧路市役所、浦河町役場、枝幸町役場、別海町役場、戸沢村役場
- 自営業** スパイス
- 進学** 東京大学大学院(新領域創成科学研究科)

平成23年度卒業予定者の就職状況

1. 求人件数及び内定状況 平成24年3月23日現在

区分	求人件数	卒業(予定)数	就職希望者数	内定者数	内定率(%)	未定者数
男子	211	182	182	156	85.7	26
女子	66	55	55	51	92.7	4
共用	867	—	—	—	—	—
合計	867	277	237	207	87.3	30

2. 進路別内定状況

進路	男子				女子				計			
	希望者数	内定者数	未定者数	内定率%	希望者数	内定者数	未定者数	内定率%	希望者数	内定者数	未定者数	内定率%
民間	154	132	22	85.7	48	46	2	95.8	202	178	24	88.1
公務	26	22	4	84.6	7	5	2	71.4	33	27	6	81.8
自営	2	2	0	100.0	0	0	0	0	2	2	0	100.0
計	182	156	26	85.7	55	51	4	92.7	237	207	30	87.3
進学	3	3	0	100.0	2	1	1	50.0	5	4	1	80.0
無業	15	15	0	100.0	5	5	0	100.0	20	20	0	100.0
合計	18	0	18	0.0	7	1	6	14.3	25	1	24	4.0
合計	200	156	44	78.0	62	52	10	83.9	262	208	54	79.4

3. 産業別地域別内定状況

業種	釧路管内		北海道内		北海道外		計		合計	割合
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
製造	1	0	5	1	9	2	15	3	18	8.7
卸売・小売	6	1	21	2	16	5	43	8	51	24.5
金融・保険	3	1	20	10	7	3	30	14	44	21.2
運輸・情報	3	1	5	4	4	4	12	9	21	10.1
サービス	4	0	18	10	12	2	34	12	46	22.1
公務	1	2	13	2	8	1	22	5	27	13.0
計	18	5	82	29	56	17	156	51	207	—
進学	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0.5
合計	18	5	82	29	56	18	156	52	208	100.0
割合	23	5	111	29	74	18	208	208	100.0%	—
	11.1%	5.34%	53.4%	29.0%	35.6%	100.0%	100.0%	100.0%	—	—

大学ニュース

— 平成23年度を振り返って —

●4月11日（月）第24回入学式

午前10時より本学24期生の入学式が挙行され、308名（経済学科211名、経営学科97名、男229名、女79名）が晴れて入学した。

●8月7日（日）オープン・キャンパス

本学の関心を高めてもらうため、オープン・キャンパスを開催。今回で15回目となり、308名の参加者は熱心に話を聞いていた。

●9月1日（水）交換留学生来日

台湾の明道大学より、詹 怡茹（ジャン イールー）さんと陳 誼瑄（チェン イーシュアン）さんが本学の交換留学生として来日した。

●10月7日（金）～9日（日）KPUフェスタ（大学祭）

今まで積み上げてきた実績と経験に趣向を凝らした様々なイベントが追加され、より一層、盛況なものとなった。

●10月6日（木）～11月11日（金）公開講座

平成23年度の公開講座を本学の松井憲明教授、河村一教授、申賢洙教授、鈴木慶夏准教授が、それぞれの個別テーマで講演を行った。

●10月27日（木）特別講演会

桜美林大学リベラルアーツ学群准教授 松尾 昌宏氏より、「国際航空旅客移動におけるハブ空港都市の発展と後背地市場」というテーマで講演があった。

●11月10日（木）特別講演会

香川大学大学院地域マネジメント研究科教授 板倉 宏昭氏より、「地域企業の経営戦略」というテーマで講演があった。

●11月24日（木）平成24年度特別選抜試験

全国より149名〔推薦入学試験（経済学科107名、経営学科42名）が試験に臨んだ。その結果113名が合格した。

●平成24年度一般入試（前期日程）

大学入試センター試験をもって選考。591名（経済学科408名、経営学科183名）の志願者があり、3月5日（月）に合格発表が行われた。

●3月8日（木）平成24年度一般入学試験

[公立大学中期日程]

東京・大阪・盛岡・札幌・釧路の5会場にて実施。1,209名（経済学科786名、経営学科423名）の志願者があり、3月21日（水）に合格発表が行われた。

●3月23日（金）平成23年度学位記授与式

第21期の卒業生270名が公立大生として堂々と学位記の授与を受け、さらに成績優秀な5名が特別表彰された。式の終了後、卒業生は学友と記念撮影などをし、別れを惜しみながら巣立っていった。

平成24年度年間スケジュール

4月1日……学年始め	9月24日……後期授業開始	1月24日……後期定期試験（2／1迄）
9日……入学式	10月5日……大学祭（KPUフェスタ）	3月1日……卒業生発表
10日……オリエンテーション	（10／7迄）	8日……平成25年度一般選抜試験
11日……前期授業開始	11月22日……平成25年度特別選抜試験	16日……春期休業開始
6月25日……開学記念日	12月23日……冬期休業開始（1／9迄）	22日……卒業式
7月24日……前期定期試験（8／1迄）		31日……後期終了
8月2日……夏季休業開始（9／22迄）	平成25年	
9月22日……前期終了	1月10日……授業開始	

平成24年度前期授業料について

前期授業料は5月1日までに納めて下さい。最寄の金融機関から、同封の「納入通知書兼領収書」でお振込み下さい。特別な事情により授業料の分割納付や減免を希望される場合は、学年毎に指定された受付日に関係書類を提出して下さい。

編集後記

私事ですが、この3月で卒業する学生さんは、実は私と公立大の同期、つまり、私が赴任した年に入学した皆さんです。あの時の新生が入社に出ていくのかと思うと、何とも感慨深いものがあります。それと同時に、彼らがこの4年間でした成長の何分の1かでも、自分もこの間成長できたかどうかと、つい自問してしまいます。卒業生の皆さんは、これから社会の中でさらに成長していくことでしょ。それに負けないように、私たちが研鑽を重ねなければならぬとあらためて思います。この3月で、4人の先生方が本学を去られます。これまでの本学でのご活躍に心から感謝します。

釧路公立大学だより 第45号
平成24年4月1日発行

◎発行元

釧路公立大学

〒085-8585 釧路市芦野4丁目1番1号

TEL 0154-37-3211(代)

FAX 0154-37-3287

学生課：TEL 0154-37-5091

URL: <http://www.kushiro-pu.ac.jp/>

◎発行日

毎年2回(4月1日、10月1日)

◎表紙題字／高嶋初代学長筆＊あうろーら (AURORA)：ギリシャ神話の曙の女神エオスのローマ名